

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス カラフル			
○保護者評価実施期間	2025年9月12日 ～ 2025年9月29日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	57	(回答者数)	34
○従業者評価実施期間	2025年9月12日 ～ 2025年9月29日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年9月29日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	プログラミングやマイクラフトといったデジタルツールを活用した活動 楽しみながら、問題解決力や創造力、協働する力を育む 自分の得意や好きなことを見つけ、自己肯定感を高める プログラムを実施	プログラミング、イラスト、動画編集、お菓子作りなど多岐にわたるプログラムを用意し、スキを発見する工夫を取り入れている それぞれのレベルに合わせた支援の取り組みや、スモールステップで学べる仕組みを導入	より未来につながる学びを子どもたちに届けることを目指す デジタル教材や教育ツールの充実化を図り、発達段階や興味に応じた個別プログラムを模索 プログラミング検定やパソコン検定(P検)など、スキルを「形」として残せる仕組みを取り入れ、子どもたちが「将来につながる学び」を実感できるようにしていく
2	デジタルツールを積極的に活用し、保護者と連携しやすい環境を整え「安心」「納得」「信頼」の提供に尽力	一日の様子を「見える化」するため、写真や動画を積極的に共有 活動報告以上の「成長の実感」を得られるように配慮 公式LINEの活用で、連絡系統の簡素化	保護者と双方向に情報をやり取りできる体制の整備 例)公式LINE:定期的にミニアンケートや相談フォームの設置し、保護者の声を日常的に反映させる仕組みを強化など 「預ける場」から「共に育つ場」へと進化する支援体制の構築を目指す
3	多彩なプログラム 長期休暇中や土曜日のイベントでは、子どもたちの興味・関心に合わせて工作、実験、ゲーム、体験学習、発表会など多彩なプログラムを準備 これにより、好奇心を刺激しながら、普段の活動では得にくい体験を提供	毎回「クッキング」「制作」「おでかけ」などテーマを設定し、それに沿ったプログラムを展開 子どもたちが一日を通じ、「体験と実績」を得られる様に都度検討	現在のテーマに加え、地域連携型(地域の施設や公共施設を使う体験)、専門家招聘型(科学者、アーティスト、講師を招いたワークショップ)を導入し、さらに拡張をはかる

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・より実践的な訓練の必要性 対応マニュアルは整備済、ガイドラインに沿った訓練も実施しているが、実際に緊急事態が起こった際によりスムーズに対応できるような仕組みづくりが必要	マニュアルは情報量が多い	簡素化したフローチャートの整備、訓練回数を増やすなどの措置が必要
2	保護者同士の交流機会の少なさ	プライオリティの低さ	保護者会や参観日などを設け交流の機会の創出が必要